

■ 東京都がデジタルツイン3Dビューアにより能登半島地震の被害状況を可視化

東京都では、デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出す「スマート東京」の実現を目指し、「デジタルツイン実現プロジェクト」を推進している。主な目的は、少子高齢化・人口減少、人流・物流の変化、気候変動の危機等、今後予測される社会情勢の変化への対応や首都直下型地震への備えだ。

2022年度からは2カ年計画で、デジタルツインの基礎となる都内全域の「3次元点群データ」の整備を進めており、昨年9月には多摩・島しょ地域（小笠原諸島を除く）の3次元点群データを公開した。オープンデータとして広く活用できるようにするとともに、「東京都デジタルツイン3Dビューア」にも掲載している。このデータは、公開されている航空レーザー測量による点群データとしては、日本で最も高い精度となっている。なお、特別区の3次元点群データは2024年度公開予定だ。

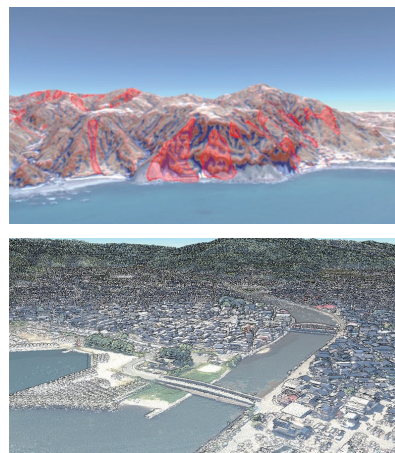
2月には、令和6年能登半島地震の被害状況に関する地理空間データを東京都デジタルツイン3Dビューアに掲載した。掲載したデータは以下の通り。

- (1) 3Dデータ
 - 点群データ(RGB)〈発災前^{*}〉
 - 微地形表現図〈発災前〉等
- (2) 2Dデータ
 - 斜面崩壊
 - 堆積分布データ〈発災後〉
 - 写真地図画像〈発災前〉等

(1)のデータは、G空間情報センターで非商用に限り誰でも利用可能なデータとして公開している。また(2)のデータは今後、順次追加していく予定だ。

点群データについては、今後、国等が発災後の点群データを取得する予定であり、これらを重ね合わせて災害状況の正確な把握や分析に活用できると期待されている。例えば、発災前後の地形データや被害状況に係るデータを3次元で表現し、重ね合わせて見ることも可能だ。誰でも、また専用のソフトウェアがなくてもWebブラウザ上で利用できるため、被災自治体職員、工事関係者や応援職員等が、被害状況を分かりやすく把握することができ、早期の復旧・復興に役立つと期待される。

今後、東京都は3Dデータの活用経験がある静岡県と連携し、技術的な支援も行っていく。



上：発災後の斜面崩壊堆積分布を表示
下：発災前の高精細な地形をデータで表示

※石川県の点群データを都がカラー化するなどの加工をしている。

Crossing for

総合電機メーカーならではの強みを掛け合わせて、社会課題の解決へいち早く。三菱電機は、そんな思いのもと、ITソリューションを進化させていきます。

エネルギー	公共	交通	ビル	宇宙・通信
産業・FA	自動車機器	半導体・電子デバイス	空調・冷熱	ホームエレクロニクス

ITソリューション

AI
IoT
ビッグデータ
セキュリティ
電子認証

力を、掛け算。

三菱電機のITソリューション

www.MitsubishiElectric.co.jp/it/
三菱電機株式会社